

オナガラムシオイガイ

Chamalycaeus takahashii

ムシオイガイ科

カテゴリー

大分県 IB

環境庁 I



本県石灰岩地域の特産種で、本匠村^{おなから}小半鍾乳洞で発見された。石灰岩の狭いすき間や礫^{れき}の間、落ち葉の下などに生息する。殻は低い円すい形で、高さ2.5mm、径が4.5mmほどあり、淡い灰白色をしている。この貝の仲間は、殻の表面に虫のような細い管を付けているので、ムシオイガイ（虫負い貝）と呼ばれる。殻口付近のくびれや隆起が顕著なことで、他の種と区別される。人による採取や観光開発などで個体数が減少し、絶滅の危険性が高くなっている。

（写真：増田 修 文：神田正人）

県内分布 白杵市，野津町，津久見市，本匠村，佐伯市

分布域 九州（大分）